

授業科目(ナンバリング)	社会福祉現場実習 (DB406) (実践的教育科目)			担当教員	卒業研究担当教員		
展開方法	実習	単位数	2単位	開講年次・時期	4年前期(集中)	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本科目は「社会福祉現場実習指導」と対となる科目である。人間尊重を理念に、社会福祉関連施設・機関における業務を実習先の指導者の下で体験学修し、より実践に即した問題解決のための思考・判断ができる専門職になるため、社会福祉職として身に付けておくべき基盤を形成することがねらいである。また、将来の職業選択の準備に役立てることもねらいに含んでいる。</p>							①
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	実習先における社会福祉職の業務全体についての理解を深めることができる。				実習記録	10%	
情報収集、分析力	実習先における施設・機関の機能や役割を理解できる。				実習記録	20%	
コミュニケーション力	社会福祉職として必要な適性について考え、信頼を得る態度を身につけることができる。				実習指導者コメント	20%	
協働・課題解決力	様々な専門職と協働して課題解決する場面において、専門職として主体的・自律的に行動できる。				実習記録	40%	
多様性理解力	一人ひとりの利用者について理解できる。				実習記録	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「実習記録」(80%)は、社会福祉職の業務や社会福祉関連施設・機関の機能、利用者についての理解度、並びに専門職としての主体的な取り組み具合をもって評価する。「実習指導者コメント」(20%)は、実習先の指導者のコメントを担当教員が受け、評価する。いずれの評価も、その内容を本人と面談形式による指導の中でフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>「社会福祉現場実習指導」にて作成した実習計画書に沿い、社会福祉関連施設・機関という実践現場の中でプログラムを進めていく形式にて実習を行う。指導は、実習先の従事者が実習指導者となり、行っていく。1日8時間の計算で12日間、90時間以上を基本とする。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：資料を配布する 参考書：必要に応じて指示する 指定図書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、長谷川匡俊・上野谷加代子他編(2014)『社会福祉士 相談援助実習(第2版)』中央法規</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

社会福祉関連施設・機関で体験学修をするため、そこで交えることになる人・モノ・場所すべてが実践であることを理解してほしい。実習先で意欲的に学ぶことはもちろん、礼節を重んじること、秘密保持やプライバシーの保護、提出物の期限を厳守すること、担当教員や実習指導者と報告・連絡・相談を密に行うことが求められる。これらの実習生としての姿勢・態度を通じて、実習をより良いものとし、学修成果を上げてほしい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
	<p>実習 (1日8時間、12日間)</p>	<p>実習先である社会福祉関連施設・機関にて、実習計画書に基づくプログラムを行っていき、体験学修で得られた知識や技能を身に付ける。その際、実習先の指導者の指示・指導により、実習成果をより高次なものにしていく。 (現場実習中の指導は実習先の実習指導者が担当) (実習訪問は卒業研究担当教員が担当)</p>	<p>必要に応じて指示された記録を作成し、疑問点は整理し、予習と復習を記録にまとめておく。</p>